別紙様式（B4横型）

令和５年度　学校自己評価（ 計画段階 ・　実施段階 ）

学校番号 67

福岡県立大川樟風高等学校長
（定時制課程）

			評価(3月)
学校運営方針	地域全体を学びの場とした教育活動をとおして「人や地域とつながり、未来を自ら創造できる力」を育成し、「志学　創造　貢献」の校訓のもと、何事にも全力で取り組み、地域を支える有能な人材を育成し、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを目指す		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
[成果] ・全校一致団結のもと創立20周年記念事業を実施して、本校の伝統や文化について改めて認識するとともに新たなスタートを切ることができた。 ・定時制課程ホームルーム教室を新たに確保し、教育環境を整えることができた。 ・新型コロナウイルス感染防止の対策を取りながら予定した行事やボランティア活動を実施した。また、部活動、弁論大会等において素晴らしい成果をあげた。 [課題] ・多様な背景を持ち、課題を抱える生徒の学びを保証するため家庭との連絡を密にして、一人ひとりの生徒理解と組織的な相談体制の充実を図る。 ・地域や校種間における連携を図り、積極的に情報発信を行い志願者数を増やす。 ・魅力ある定時制として、学校行事やキャリア教育、ボランティア活動等を充実させるとともに生徒達のコミュニケーション能力の向上を図る。 ・ICT機器や一人一台のタブレット型パソコンの活用を充実させ基礎学力の定着向上を目指す。	1　魅力ある定時制づくり （定時制の学校行事の充実及び部活動、生徒会活動の活性化）	○魅力ある学校行事の実施と積極的な参加 ○生徒会を中心とした学校行事の運営 ○部活動の参加率向上と活性化	
	2　安全で安心な教育活動をとおした自分磨き （笑顔で挨拶、爽やかな清掃、資格検定の取得、ボランティア活動の推進）	○いじめや差別のない環境づくりと人権教育の徹底 ○安全安心に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 ○社会人としてのマナーの育成と規範意識の醸成 ○資格検定取得と検定の合格率向上 ○ボランティア活動への積極的な参加	
	3　ICT教育の推進 （授業が変わる・授業が分かる・学力アップへの道）	○新学習指導要領における一人一台タブレット型パソコンの有効活用 ○確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫・改善 ○ICT機器を活用した授業実践に対するスキルアップ	
	4　キャリア教育の更なる充実 （進路実現向けた適切な指導、着実な進路実績）	○キャリアパスポートを活用した段階的なキャリア教育の推進 ○職場訪問を充実させた就学就労の両立 ○一人ひとりの個に応じた積極的な進路指導	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	出席率の向上に努め、遅刻者数を減らす。さらに、中途退学者の減少を目指す。	学年・授業担当者と連携して、「授業に出るのは当たり前」という状況をつくる。				
		出身中学校や家庭との連携を密にする。				
		出席率の達成目標を、全学年平均で90%とする。「中途退学者数を2人未満」「皆勤賞・精勤賞を5名以上」の実現を目指す。				
	新学習指導要領に基づき、学習活動の充実に努め、基礎学力の定着を図るとともに、個々の生徒の特性に応じた学力の向上を目指す。また、全日制との共用教室から、定時制単独教室になったことに伴う影響を検証し、より良い学習環境の実現に努める。	各教科担当が基礎学力の充実に重点を置いた指導を行うとともに、総合的な探求の時間等を利用して、主体的で深い学びを実現する。				
		「生徒の基礎学力定着に向けた指導の改善・充実に係る取り組み」での得点率の向上を図る。また、漢字検定、簿記検定などの各級の合格者を増やす。				
		体育館や食堂から距離が遠くなったことの影響について検証を行い、また、定時制専用の教室となったメリットを生かしての学習環境の整備等に取り組む。				
生徒指導	生徒同士が共に学び、支え合う関係づくりに努め、授業規律を確立する。	生徒会が中心となり、「安心安全な学校、いじめのない学校」づくりに向けた話し合いを行い、生徒自ら啓発に取り組む。				
		教務部・学年・授業担当者と連携し、授業、行事や清掃活動に取り組む態度を養い、時間を守り共に学ぶ環境をつくる。				
		「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」を毎月実施し、生徒の意識や動向を調査する。				
	学習環境の点検・整備を行い、生徒の安全確保に努める。	全日制、中学校や消防署等関係機関と情報交換及び情報収集に努め、講話、体験的活動や校外補導等、連携・協力して取り組む。				
		職員で分担して、毎日、登校指導及び校内巡回を行い、安心で安全な環境をつくる。				
		登校時の指導や給食時間等を利用して積極的に挨拶や声掛けを行う。				
進路指導	入学時より全ての生徒が進路実現について考える機会を多く設定し、卒業生全員の希望進路実現に努める。	各学期実施の相談週間等で進路についての希望や現状を把握し、全職員で情報を共有する。				
		ICTを積極的に活用し、求人情報の早期提示と進路意識の行為用を図る。				
		ハローワークと連携し、就職実現に向けた面談や支援を強化し進路実現100%を達成する。				
	進路関係行事の複数設定や、HR、特別活動など全職員でキャリア教育の充実に務める。	生徒の希望校種に沿った進路ガイダンスを実施する。				
		卒業生複数名による講演会を実施し、在校生の進路意識の高揚を図る。				
		年2回の進路講演会実施にあたり、意義や実施日時の早期連絡で参加率100%を目指す。				
保健	食育の充実を図り、喫食率向上に努める。	食に関する講演会を計画・実施し、食への興味や大切さを意識づける。				
		給食委員会にて給食施設の設備状況や生徒の喫食率、嗜好などの情報共有を行う。				
		食に関する意識の高揚を図るため、給食アンケートを年に3回実施し、問題把握に努める。				
	健康で安全な学校生活を送るために、保健指導の徹底を図る。	保健だよりの発行、全体の場での保健指導などを通じて保健情報を提供する。				
		専門の講師による健康教室を計画・実施し、食育・性教育・薬物防止等の保健指導を行う。				
		タバコやアルコールの害などは繰り返し指導に努める。				

研修	指導力向上のための職員自己研鑽の充実に努める。	全・定合同の職員研修会の実施に向けて全日制研修部と内容の検討、日程の調整を図る。				
		できるだけ早い時期に研修内容、講師を検討する。（全定合同職員研修年6回・人権同和特設年3回・いじめ対策防止委員会）				
		定時制職員研修会の更なる充実を図る。				
	生徒の学習意欲の向上を図る授業の工夫に取り組む。	職員会議で実施しているいじめ対策防止委員会を職員研修の場と位置づけ、学習意欲の向上に向けた授業の取り組みに有効活用する。				
		1学期に授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業づくりの参考とする。				
		研究授業月間を実施するとともに、研究協議の充実を図る。 （年1回の授業アンケート、研究授業、充実した研究協議会）				
図書	活字や映像、音声などすべての面から図書に親しむ。	「読書の日」等をきっかけにいろいろな書物を紹介する。				
		図書室の利用率を50％以上実現する。				
		図書の貸し出し数について月10冊を目指す。				
	自分の考えや思いを、言葉で表現できるようにする。	各分掌や教科、ＨＲ担任と連携し、芸術教室での創作活動や生活体験発表会等を通して、作文力、自己表現力をつける。				
		校内生活体験発表大会に向け、１人８００字程度の作文を書く。				
		希望購入図書のアンケート等を通して生徒の読みたい本を把握する。				
情報化推進	情報機器を活用する環境整備を行う。	研修部と連携をとりながら、ＩＣＴ教育に関する研修会を実施する。				
		定時制用タブレットの積極的な活用を促す。				
		電子黒板やパソコン室の活用を職員に呼び掛ける。				
	「樟風講座パソコン教室」等を通して地域住民の方にPR活動を行う。	ウェブページの作成更新は全日制職員と協力していく。				
		ウェブページ更新を年間２０回以上行い、定時制入学希望に繋がるＰＲ活動を行う。				
		学校開放講座に関して、全職員・生徒と協力する。				
人権・同和教育	特設授業では学習プリント等を活用し、生徒が積極的に参加できるよう工夫する。	年３回、人権教育教材集「あおぞら」と「かがやき」を活用した人権教育特設授業を実施する。				
		特設授業では学習プリント等を活用し、生徒が積極的に参加できるよう工夫する。				
		挨拶や声かけを通して講師と生徒のコミュニケーションづくりに努める。				
	いじめの未然防止に努める。	気になる生徒の情報を早期に全職員と共有し、いじめや差別のない学校をつくる。				
		「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」から生徒の実態把握に努める。				
		定期に担任や生徒指導主事との会議を設け、情報の共有を図り、いじめの未然防止に努める。				
1年	安心安全で、一人ひとりが主体的に登校できるような環境をつくる。	教室の整理整頓を徹底し、学習意欲が高まるような環境を作る。				
		HRや面談週間、SCの積極的活用を実施し、生徒の不安や悩みに早期発見、早期対応を心がける。				
		特別活動を通じて人権意識や個の尊重、相互理解を深め、クラスの雰囲気を充実させる。				
	基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	食事や睡眠、運動のバランスの良い生活と登校を一つのサイクルとして習慣化させる。				
		基礎学力定着の充実により、学ぶ楽しさを味わわせ、学習意欲の高揚を図る。				
		全員進級と年間を通じて出席率80％を達成する。				
2年	基本的生活習慣を確立させる。	家庭と連携を密にし、情報を共有することで、生徒の変化にいち早く気づき、早期発見・早期対応を心掛ける。				
		継続したSCの活用。またHRや三者面談また家庭訪問等をおこない情報の収集を図ると同時に生徒にとって話ができる場を多く設ける。				
		継続したSCの活用。またHRや三者面談また家庭訪問をおこない、基本的生活習慣の定着を図る。				
	基礎学力を定着させる。	考査前に限らず普段の授業から積極的に生徒への声かけと個別の生徒対応を図る。				
		キャリア教育を充実させ、HR等で就業についての指導・助言を継続する。				
		個人にあった無理のない学業と就労のワークライフバランスの維持。				
3年	学業と仕事の両立を目標に、出席率の向上と全員進級を目指す。	家庭や各教科担当と情報を共有し、生徒の変化にいち早く気づき、早期発見・早期対応を心掛ける。				
		アルバイト就業率100％を目指す。				
		出席率90％以上、全員進級を目指す。				
	進路実現に向けての意識を向上させ、具体的な目標を設定させる。	アルバイト情報や現在の就労状況を収集し、生徒に提示・助言する。				
		キャリア教育を充実させ、HR等で就業についての指導・助言を継続する。				
		進路実現に向けて、それぞれに求められる基礎学力の定着について主体的に取り組ませる。				
4年	進路についての目標を明確化させ、個別の進路指導を実施する。	進路実現のためのアドバイス、面接練習等を実施し、希望進路の実現を達成する。				
		卒業後の進路について目標を明確にさせ、個々に合った進路実現を目指す。				
		希望の進路実現100％を達成する。				
	基本的な生活習慣を確立し、登校率の向上と全員卒業を達成する。	HRや総合探求の時間等を活用し、生徒一人一人の居場所（活躍の場）のあるクラスづくりに努め、落ち着いた学習環境を準備する。				
		クラスの出席率90％と全員卒業を達成する。				
		個人面談の実施や保護者との協力体制の確立・維持、早期連絡を実施し、欠席、遅刻等を減少させ進路実現と全員卒業を達成する。				